



道内20現場、全国で50現場目の採用となった大曲トンネル
海通開発局の道新道大曲トンネル(施工、宮坂建設)

トンネル覆工コンクリート向けバルーン養生

初採用から3年、業績伸ばす
06年度、道内で7件受注

東宏、西松建設共同開発



小林 雅彦副社長

東宏(本社・札幌)と西松建設が共同開発したトンネル覆工コンクリート向けのバルーン養生が、業績を伸ばしている。初採用から約3年、北海道開発局の道新道大曲トンネル(施工、宮坂建設)でこの現場で採用され、通期では昨年の倍となる15現場の採用を見込む。

注した道新道大曲トンネルで同工法を採用した奥村組・株建設共同体が、評価で最低札を覆したことが、さらに同工法の関心を高めた。この後、道外の引き合いも多くなりスピーバ

小林雅彦副社長は、「この追い風を捉え、波に乗っていききたい。現場での使

安全に主眼を置き改善も続けていく」と話し、全国をターゲットにした普及展開を加速させる。

バルーン養生は、トンネルの覆工コンクリート打設時に、型枠全体と脱型後の表面を、風船状に膨らませたナイロンタフシートで覆う工法。型枠を覆うことで初期の養生温度を保ち、早期脱型が可能。その後は密着養生で温度、湿度を一定に保ち、ひび割れを防ぎ、長期耐久性に優れた品質の高い成果が得られる。

従来、脱型後の養生は不要とされてきたトンネル坑内だが、労働安全衛生に関する基準等の改正で坑内換気量が増大。その変化がコンクリート品質に影響する恐れがある。同社はここにビジネスチャンスを見い出した。

03年に北陸新幹線飯山トンネル(西松建設施工)を皮切りに、道内外で実績を積み上げてきた。道内は03年の赤石トンネル(道新注)から採用が進み、06年には、昨年道新道大曲トンネル(宮坂建設)で、初のVE提案が採用された。06年度は道内で7件を受注している。

同社は「使いやすさが向上すれば、さらに性能は向上する。使い勝手の面で競合に改良を加えていきたい」と(小林副社長)と話す。脱型から養生にかけての連携など、さらなる工法改善に取り組み考えた。また、密閉性を生かし防音や粉じんの飛散防止といった、スクリーンとしての提案も進める。

▽問い合わせ先 東宏、西011(742)3333331